

令和4年度

BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業

(先導事業者型 二次募集)

評価結果報告書

令和4年9月

BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業評価委員会

目 次

1. BIM を活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業（先導事業者型 二次募集）の応募状況-----	1
2. 評価手順及び評価の視点-----	3
3. 評価結果-----	5
4. 総評-----	10

1. BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業（先導事業者型）の応募状況

（1）募集概要

「BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業（以下「本事業」という。）」（先導事業者型）は、BIMを通じたデジタルデータの活用により、建築分野における生産性向上、建築物・データの価値向上や様々なサービスの創出等に向けて、設計・施工等のプロセスを横断してBIMを活用する試行的な建築プロジェクトにおけるBIM導入の効果等を検証する取組について、優れた提案を応募した者に対し、国が当該検証等に要する費用の一部を補助するものである。

本事業（先導事業者型）では、建築BIM推進会議で策定された「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第2版）（令和4年3月策定。以下「BIMガイドライン」という。）」の標準ワークフローを前提としたBIMを活用する試行的な建築プロジェクトについて実施される以下の（1）及び（2）のいずれも実施する効果検証・課題分析等の取組みを募集した。

募集した事業：BIMガイドラインの標準ワークフローを前提とした建築プロジェクトで以下の

（1）及び（2）の両方を実施する事業

- （1）BIMを通じたデジタルデータの活用による、BIMの活用による生産性向上、建築物・データの価値向上や様々なサービスの創出等を通じたメリット（特に発注者メリット）の検証等
- （2）BIMデータの活用・連携に伴う課題（特に発注者と受注者の役割分担等）の分析等

<二次募集 公募期間>

令和4年7月8日（金）～同年8月3日（水）必着

（2）応募概要

（応募総数）

合計4件の応募があった。

（応募者の構成員数別の提案数）

① 単独の応募者による提案	1件
② 複数の者が共同で応募する提案	3件

(代表応募者の企業規模別の提案数)

① 代表応募者の従業員数 1001 人以上	2 件
② 代表応募者の従業員数 301 人から 1000 人以下	1 件
③ 代表応募者の従業員数 31 人から 300 人以下	0 件
④ 代表応募者の従業員数 30 人以下	1 件

(プロジェクトの概要 構造種別の提案数) ※

① 鉄骨造	3 件
② 鉄筋コンクリート造	3 件
③ 鉄骨鉄筋コンクリート造	0 件
④ 木造	0 件
⑤ その他	1 件

(プロジェクトの概要 区分別の提案数) ※

① 新築	4 件
② 既存	1 件
うち増改築・改修の設計・工事等 有	1 件
うち増改築・改修の設計・工事等 無	0 件
③ その他	0 件

(プロジェクトにおける提案者の役割別の提案数) ※

① 発注者	1 件
② ライフサイクルコンサルティング業者	1 件
③ 設計者	3 件
④ 施工技術コンサルティング業者	0 件
⑤ 施工者	1 件
⑥ 維持管理・運用 BIM 作成者	1 件
⑦ 維持管理・運用管理者	1 件
⑧ その他	2 件

(プロジェクトにおける発注者の位置づけ別の提案数) ※

① 建築物の所有者	4 件
② その他	1 件

(検証・分析の対象とする業務ステージ(業務区分)別の提案数) ※

① S0	1件	⑥ S5	1件
② S1	2件	⑦ S6	1件
③ S2	2件	⑧ S7	1件
④ S3	3件	⑨ その他	0件
⑤ S4	2件		

(前提とした標準ワークフロー別の提案数) ※

①	3件	⑤	0件
②	0件	⑥	1件
③	0件	⑦ その他	0件
④	0件		

(検証の時期別の提案数) ※

① これからBIMを活用するプロジェクトについて検証を行う	4件
② 既に実施済みのプロジェクトについて、BIMを活用して検証を行う提案	2件
③ 仮想的なプロジェクトにより、BIMを活用して検証を行う提案	1件

※ひとつの提案で複数に該当する場合は重複して計上している。

2. 評価手順及び評価の視点

(1) 評価手順

応募のあった提案事業の審査及び評価は、学識経験者からなる「BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業評価委員会」(以下「委員会」という。)において、以下の手順により実施した。

- 1) 事務局において、応募提案の申請書類一式を確認し、書類の不備、応募要件の確認を行い、提案内容の整理を行った。
- 2) 応募要件等を満たしていることが確認された事業について、委員会の委員及び事務局で提案申請書、補足資料を確認し、各委員が個別の提案内容に対する評価を行った。
- 3) 評価に際し、応募者への質疑等の必要が生じたものについては、事務局経由で応募者に質疑等への回答及び対応を依頼し、確認を行った。
- 4) 評価結果を踏まえ、採択する事業の候補を選定し、委員会において最終的な判断を行った。

評価にあたっては、提案申請書、補足説明資料をもとに、委員がそれぞれの専門性を踏まえた採点を行い、これを基に評価委員会としての総合的な評価結果をとりまとめた。

(2) 評価の視点

提案内容の評価においては、募集要領に定める応募要件への適合性と以下の1)～6)までの項目について評価を行った。

1) 事業の趣旨・目的への適合性

本事業の趣旨・目的を理解し、提案する事業においてBIMの活用手法や、検証する効果やその比較基準・目標、分析する課題等を適切に設定できているもの

2) 事業の実現可能性・熟度

提案された取組に関する実施計画や実施体制等の実現の可能性、スケジュールの具体性等の観点から、事業の実現可能性・熟度が高いもの

3) 事業の発展性

本事業の成果を公表・展開することで、BIMによる建築分野の生産性向上の取組や検討等を更に進展させる効果が期待できるもの

4) 事業の波及性

本事業の成果を公表・展開することで、BIMによる建築分野の生産性向上や普及等、市場の共通課題の解決につながるもの

5) 事業の効率性

本事業の実施に当たって、検証内容や得られる成果等に対し、効率的な実施計画や実施体制となり、費用対効果が最大限発揮されるもの

6) その他

過去に本補助金の交付を受けた者で、事業の執行に関し不適切な対応があったもの等、本事業の採択にあたって不適切と認められる者が応募者（複数者からなる場合はその構成員を含む。）に含まれる場合は、当該応募者の提案を不採択とする場合がある。

3. 評価結果（本事業（先導事業者型）の採択候補とする提案の一覧）

応募があった4件について評価を行った結果、次の通り4件を採択候補事業とする。

採択候補事業の提案概要、委員会の評価概要は次頁以降に掲載する。

（採択候補事業一覧）

※採択候補事業の並び順は代表応募者名順（五十音順）としている。

応募提案名	応募者 (共同応募の場合は筆頭が代表応募者)
維持管理 BIM システムの高度化・迅速化の検証	株式会社奥村組 株式会社アラヤ
鉄道施設における設計フロントローディングを用いた効率化の検討	株式会社 JR 東日本建築設計 株式会社構造計画研究所
新しい設計概算手法によるコスト算出の迅速化と AI コスト予測に関する評価・検証および BIM モデル×自律型ドローンを活用した遠隔工事監理手法（進捗管理効率化）に関する評価・検証	東洋建設株式会社
Uniclass を付与した実施設計 BIM モデルによる概算コスト算出手法の検証	株式会社フジキ建築事務所 株式会社奥野設計 協栄産業株式会社

(各採択候補事業の提案概要及び評価概要)

応募提案名	維持管理 BIM システムの高度化・迅速化の検証
応募者	株式会社奥村組、株式会社アラヤ
プロジェクトの概要	用途、床面積、階数 用途：事務所、研究所、倉庫 床面積：9.82 m ² ～2054.42 m ² 階数：1 階～5 階
	構造種別 ■鉄骨造 ■鉄筋コンクリート造 □鉄骨鉄筋コンクリート造 □木造 ■その他（コンクリートブロック造)
	区分 ■新築 ■既存（増改築・改修の設計・工事等 ■有 □無）□その他
プロジェクトにおける提案者の役割	■発注者 ■ライフサイクルコンサルティング業者 □設計者 □施工技術コンサルティング業者 □施工者 ■維持管理・運用 BIM 作成者 ■維持管理者・運用管理者 ■その他（エネルギーシミュレーション・BIM モデル作成等のコンサルティング）
プロジェクトにおける発注者の位置づけ	■建築物の所有者 □その他
検証・分析対象とする業務ステージ	□S0 □S1 □S2 □S3 □S4 □S5 ■S6 ■S7 □その他
前提とした標準ワークフロー	□① □② □③ □④ □⑤ ■⑥ □その他
検証の時期	■これから BIM を活用するプロジェクトについて、検証を行う。 ■既に実施済のプロジェクトについて、BIM を活用して検証を行う。 □仮想的なプロジェクトにより、BIM を活用して検証を行う。
提案概要	<p>本提案は、R3 年度のモデル事業において維持管理 BIM システム構築・維持管理業務の業務量削減の検証を行った自社の技術研究所の管理棟・室内環境実験棟を対象に、維持管理システムの拡充を行い、システム内での LCC 算出やセンシング技術を取り入れた室内環境のシミュレーションから光熱費を削減できるしくみを構築、発注者メリットの検証等を行うものである。</p> <p>また既存 BIM モデルがない条件で、いかに効率的に維持管理 BIM モデルを作成するか、データマイニング用にカスタマイズした BIM モデル作成のテンプレートの整備や Lidar カメラ等点群技術を取り入れた効率化等の効果検証・課題分析を行うものである。</p> <p><検証の対象とする定量的な効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○維持管理業務の削減 ○維持管理業務の効率化を図ることによる発注者のメリット ○エネルギーシミュレータによる予測電力の精度向上 ○予測値を長期修繕計画の検討等に利用することによる発注者のメリット <p><分析する課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○BIM モデル作成とデータマイニングの合理化手法 ○既存建物 BIM モデル構築の合理化手法
評価概要	<p>BIM ガイドライン（第2版）に新たに設けられた標準ワークフロー⑥の検証に係る取組、また BIM データの最大限の活用を目的とした取組であり、先導事業者型の趣旨・目的に沿うものとして評価できる。効果検証・課題分析の内容は堅実で、解決しようとしている課題も評価できる。</p> <p>一方で、維持管理段階における BIM 活用については過年度のモデル事業においても様々な効果検証・課題分析が行われており、それらと重複しないよう事業を実施することが求められる。また、発展性や波及性を高めるためには、自社のデータ処理に係る効果検証・課題分析を深めるにとどまらず、国際標準（IFC、COBie、Uniclass など）の適用による課題解決の可能性にも目を向けた効果検証・課題分析を行うことが望まれる。</p> <p>R3 年度事業をベースとした効果検証・課題分析であり、事業の効率性の観点からは、必要に応じて項目にメリハリをつけることや、実施計画・体制を精査することが考えられる。</p>
条件	これまでのモデル事業での成果を踏まえ、検証が重複しないよう取り組むこと。

(各採択候補事業の提案概要及び評価概要)

応募提案名	鉄道施設における設計フロントローディングを用いた効率化の検討
応募者	株式会社 JR 東日本建築設計、株式会社構造計画研究所
プロジェクトの概要	用途、床面積、階数 用途：鉄道電気設備建物（電気設備機器室） 床面積：約 50～200 m ² （計画） 階数：1 階（計画）
	構造種別 ■鉄骨造 □鉄筋コンクリート造 □鉄骨鉄筋コンクリート造 □木造 □その他
	区分 ■新築 □既存（増改築・改修の設計・工事等 □有 □無） □その他
プロジェクトにおける提案者の役割	□発注者 □ライフサイクルコンサルティング業者 ■設計者 □施工技術コンサルティング業者 □施工者 □維持管理・運用 BIM 作成者 □維持管理者・運用管理者 □その他
プロジェクトにおける発注者の位置づけ	■建築物の所有者 □その他
検証・分析対象とする業務ステージ	■S0 ■S1 ■S2 ■S3 □S4 □S5 □S6 □S7 □その他
前提とした標準ワークフロー	■① □② □③ □④ □⑤ □⑥ □その他
検証の時期	■これから BIM を活用するプロジェクトについて、検証を行う。 □既の実施済のプロジェクトについて、BIM を活用して検証を行う。 □仮想的なプロジェクトにより、BIM を活用して検証を行う。
提案概要	<p>本提案は、機器の更新・老朽化に伴い継続的・計画的に複数棟の更新が必要だが、周囲の設備への影響からその位置の決定に係る発注者の社内調整に時間を要すること等が課題となっている「鉄道電気設備建物」を対象に、過去データの蓄積から建物ボリュームや概算工事費を自動的にアウトプットできるシステムを、BIM を活用して構築、従前との比較により発注者側の労力削減やコストに係る適正化（概算工事費の確度向上）に係る効果検証を行うとともに、BIM データの活用・連携に伴う発注者内部の合意形成の円滑化・コスト計画の精度向上に係る課題分析を行うものである。</p> <p><検証の対象とする定量的な効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係者の合意形成までの期間短縮や現地調査の削減による、発注者の社内調整や現地調査に係る労力（コスト）の削減 ○過去実績・蓄積コストデータからの概算工事費算出による、要求性能を満たす過不足のない仕様の選定・コストの適正化 <p><分析する課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発注者からの条件提示・発注者社内の合意形成、受注者からの計画提案に関する課題 ○発注者の予算確保・受注者の予算提示に関する課題
評価概要	<p>多数の類似仕様の建築物の発注が考えられている場合の標準的な BIM モデル作成の提案であり、鉄道事業に特化しているが、設計 BIM のトータルシステムを開発しようとする取組は、先導事業者型の趣旨・目的に沿うものとして評価できる。鉄道関連の建築物の設計監理は、安全性・工事期間等の制約の中で進められるものであり自由度の幅が狭い分、BIM 活用に適している分野とも言える。</p> <p>比較的、難易度の高いプログラム開発を複数同時進行させるように読み取れるが、事業期間中の確実な成果のとりまとめに向け、例えば関係者間で BIM データを共有するワークフローの構築や共通データ環境（CDE）の運営方法、鉄道施設特有の設備等のオブジェクトファミリーの用意など、検討テーマを明確に設定し、具体性を高めて効果検証・課題分析が実施されることが望まれる。</p> <p>また波及性の観点から、本提案固有の帰結（提案事業者のクローズドシステムで解決すべき事案）とならないよう、効果検証・課題分析が実施されることが望まれる。</p>
条件	グループ社内の受発注関係について整理した上で、一般的なプロジェクトに応用できるよう取りまとめること。また基本調査段階での BIM 適用について、本年度末に何をどこまで実施するのか（システムを開発するのか、プログラム仕様の策定までなのかなど）を明確にして取り組むこと。

(各採択候補事業の提案概要及び評価概要)

応募提案名	新しい設計概算手法によるコスト算出の迅速化と AI コスト予測に関する評価・検証および BIM モデル×自律型ドローンを活用した遠隔工事監理手法（進捗管理効率化）に関する評価・検証
応募者	東洋建設株式会社
プロジェクトの概要	用途、床面積、階数 用途：事務所（計画中）、専修学校（仮想プロジェクト）、専門職大学（施工中） 床面積：約 1,000 m ² 、760 m ² 、10,000 m ² 階数：地上 3 階、5 階、4 階
	構造種別 ■鉄骨造 ■鉄筋コンクリート造 □鉄骨鉄筋コンクリート造 □木造 □その他
	区分 ■新築 ■既存（増改築・改修の設計・工事等 □有 ■無）□その他
プロジェクトにおける提案者の役割	□発注者 □ライフサイクルコンサルティング業者 ■設計者 □施工技術コンサルティング業者 ■施工者 □維持管理・運用 BIM 作成者 □維持管理者・運用管理者 □その他
プロジェクトにおける発注者の位置づけ	■建築物の所有者 ■その他（提案中のプロジェクト）
検証・分析対象とする業務ステージ	□S0 ■S1 ■S2 ■S3 ■S4 ■S5 □S6 □S7 □その他
前提とした標準ワークフロー	■① □② □③ □④ □⑤ □⑥ □その他
検証の時期	■これから BIM を活用するプロジェクトについて、検証を行う。 ■既に実施済みのプロジェクトについて、BIM を活用して検証を行う。 ■仮想的なプロジェクトにより、BIM を活用して検証を行う。
提案概要	<p>本提案は、以下の 2 つに係る効果検証と課題分析を行うものである。</p> <p>①コスト算出の迅速化と AI コスト予測に関する評価・検証を目的とした、BIM モデルによる「新しい設計概算プロセス」の試行による効果検証と課題分析（計画中の建築物・仮想プロジェクトを対象）</p> <p>②遠隔工事監理手法（進捗管理効率化）に関する評価・検証を目的とした、正確に構築された「施工 BIM モデルと自律飛行型ドローンを活用した新しい工事監理手法」の効果検証と課題分析（施工段階の建築物を対象）</p> <p><検証の対象とする定量的な効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○概算コスト算出までの工数の削減 ○工事監理業務に係る作業時間（移動時間を含む）の削減 ○NPS (Net promoter score) による顧客満足度 <p><分析する課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○BIM モデル構築による設計概算コスト把握の実現容易性 ○コスト情報と将来的な変動係数（パラメーター）の連携によるコスト変動予測の可能性 ○自律飛行型ドローンによる工事進捗写真等確認の有効性に関する課題、運用の容易性・信頼性等
評価概要	<p>①については、「新しい設計概算プロセス」と従来の手法の違いがわかりやすく、また取組手法（例えば、積算単価表の構成や適用しようとする AI アルゴリズムやコスト変動パラメータ）の提案が一般的ではないもので構成されている等、発展性の観点から課題がある。しかし概算手法をするための LOD と LOI を整理できるならば、その成果を大いに期待したい。</p> <p>②については、CDE における施工記録の蓄積と、施工管理・工事監理への活用という点で有益な知見が得られる可能性が高い取組であり、先導事業者型の趣旨・目的に沿うものとして評価できる。</p> <p>撮影した画像データの利用技術よりもドローンの制御技術（BIM と連携した自立飛行）に重点が置かれているようにも読み取れるが、その場合は波及性の観点において課題があり、画像データの利用技術等の検討テーマを明確に設定し、具体性を高めて効果検証・課題分析が実施されることが望まれる。</p> <p>2 つのテーマの提案であるが、事業期間中の確実な成果のとりまとめに向け、必要に応じて項目やにメリハリをつけることも考えられる。</p>

(各採択候補事業の提案概要及び評価概要)

応募提案名	Uniclass を付与した実施設計 BIM モデルによる概算コスト算出手法の検証
応募者	株式会社フジキ建築事務所、株式会社奥野設計、協栄産業株式会社
プロジェクトの概要	用途、床面積、階数 用途：特別養護老人ホーム 床面積：建築面積：1,538 m ² 、延床面積：5,020 m ² 階数：地上 5 階
	構造種別 <input type="checkbox"/> 鉄骨造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> 鉄骨鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他
	区分 <input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 既存（増改築・改修の設計・工事等 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無） <input type="checkbox"/> その他
プロジェクト外における提案者の役割	<input type="checkbox"/> 発注者 <input type="checkbox"/> ライフサイクルコンサルティング業者 <input checked="" type="checkbox"/> 設計者 <input type="checkbox"/> 施工技術コンサルティング業者 <input type="checkbox"/> 施工者 <input type="checkbox"/> 維持管理・運用 BIM 作成者 <input type="checkbox"/> 維持管理者・運用管理者 <input checked="" type="checkbox"/> その他（積算者・システム開発業者）
プロジェクト外における発注者の位置づけ	<input checked="" type="checkbox"/> 建築物の所有者 <input type="checkbox"/> その他
検証・分析対象とする業務ステージ	<input type="checkbox"/> S0 <input type="checkbox"/> S1 <input type="checkbox"/> S2 <input checked="" type="checkbox"/> S3 <input checked="" type="checkbox"/> S4 <input type="checkbox"/> S5 <input type="checkbox"/> S6 <input type="checkbox"/> S7 <input type="checkbox"/> その他
前提とした標準ワークフロー	<input checked="" type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> その他
検証の時期	<input checked="" type="checkbox"/> これから BIM を活用するプロジェクトについて、検証を行う。 <input type="checkbox"/> 既に実施済みのプロジェクトについて、BIM を活用して検証を行う。 <input type="checkbox"/> 仮想的なプロジェクトにより、BIM を活用して検証を行う。
提案概要	<p>本提案は、BIM による積算の標準化検討部会（部会 4）で進めている分類体系の仕組みに沿って、実施設計段階の BIM モデルによる概算コスト算出の実用性および効果を検証するものである。</p> <p>効果検証等にあたっては、実施設計 BIM モデルのオブジェクトに分類体系 Uniclass を付与し、公共建築工事標準単価に対応した単価識別コード（営繕積算システム RIBC2）と紐づけ、数量およびコストを算出し、精度や実用性を検証する。また Uniclass を付与した BIM モデルの普及促進と、建築のライフサイクルを通じて Uniclass を介したさまざまな活用がされることを期待し、設計段階における BIM のオブジェクト（部材）への分類体系 Uniclass 付与に関する課題を分析する。</p> <p><検証の対象とする定量的な効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○施工、維持管理プロセスにおいても活用可能な精度、粒度、量の Uniclass 分類コードの付与 ○Uniclass と RIBC2 のマッピングテーブルによるコスト算出 <p><分析する課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○施工、維持管理プロセスにおいてもオブジェクトの特定等に活用可能な精度、粒度、量の Uniclass 分類コードの付与に関する課題 ○BIM 発注者情報要件（EIR）及び BIM 実行計画（BEP）に事前に盛り込むべき内容として、Uniclass 分類コードを加えることに関する課題
評価概要	<p>BIM と積算連携についての効果検証・課題分析には、部会 4 が提起する Uniclass について日本での活用法とその限界を明らかにすることが期待され、またその成果は今後、我が国が開発すべき建築分類体系の検討の一助となることが期待されるものであり、先導事業者型の趣旨・目的に沿うものとして評価できる。RIBC との連携を目指している点も、興味深い。</p> <p>効果検証・課題分析については、発注者メリット等の具体性を高めたものとして実施されること、積算で使いやすい BIM モデルの意味や積算事務所による BIM モデル構築が新しい業態となりうるのかを明らかにすること、さらに Uniclass の付与について Uniclass を展開しづらい理由や現行の積算体系との相違等を明らかにすることが望まれる。</p> <p>事業の効率性の観点からは、必要に応じて項目にメリハリをつけることや、実施計画・体制を精査することが考えられる。</p>
条件	発注者メリットの定量的な効果検証を具体的に設定し、その効果検証を本事業において実施すること。また部会 2 で検討するオブジェクト分類や部会 4 で検討する建築分類との成果との関係付け、および当該部会の検討に対する指摘等について、考察を行うこと。

4. 総評

本事業（先導事業者型）は、建築プロジェクトにおける BIM 活用の効果等を検証する取組のうち、発注者メリットを含む効果検証・課題分析や過年度の事業者が取り組んでいない効果検証・課題分析を行うものについて、国が当該検証等に要する費用の一部を補助するものである。

二次募集にも、設計者、積算者、発注者等、様々な立場から複数の提案があり、また上記を踏まえ、過年度の本事業で明らかとなった課題の発展的な効果検証・課題分析に取り組む提案や建築 BIM 推進会議での報告や各部会での検討課題・議論を適切に踏まえた提案等がみられた。

これらの提案は、本事業の実施が市場の共通課題の解決につながることを期待させるものであった。

本委員会では、募集要領にて事前に定められた発展性や普及性等の評価項目に沿って評価を行い、4 提案を採択事業候補案として選定した。これらの採択事業候補案については、建築 BIM 推進会議・建築 BIM 環境整備部会等と連携し効果検証・課題分析を行い、その成果を積極的に公開・普及することで、建築分野における更なる BIM の発展につなげることが望まれる。

令和4年度 BIM を活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業評価委員会

委員長	清家 剛	東京大学大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻教授
委員	志手 一哉	芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授
委員	蟹澤 宏剛	芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授
委員	安田 幸一	東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授
委員	小泉 雅生	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 教授
専門委員	武藤 正樹	国立研究開発法人建築研究所建築生産研究グループ 上席研究員
専門委員	高橋 暁	国土技術政策総合研究所 住宅研究部 国総研シニアフェロー

(順不同 敬称略)